

## 北海道国際協カフェスタ2001開催

10月20日（土）、21日（日）の両日、サッポロファクトリーで開催された同フェスタでは、世界の暮らし・文化にふれる多彩なイベントを行い、多数の来場者にお越し頂きました。ODAによる国際協力活動以外にも、各種NGOによるステージパフォーマンス、エスニックカフェ、写真パネル展示、チャリ



「ブータン人は誰だ!?!」というステージ企画でJICA研修員も参加していました

ティーバザー等が実施されました。（概要についてはURL：[www.h-ngo.net/festa2001/index.html](http://www.h-ngo.net/festa2001/index.html)でもご覧いただけます。）

JICA 北海道国際センター（札幌）としても、青年海外協力隊・シニア海外ボランティア募集説明会、帰国専門家報告会、平成13年度ODA民間モニター報告会、平成13年度中学・高校教師海外研修報告会を行いました。



ベトナム研修について熱弁をふるう札幌国際情報高校の椎名先生



ザンビア研修体験を現地撮影ビデオで紹介する旭川市立嵐山中学校の上村先生

青年海外協力隊・シニア海外ボランティア等の秋募集説明会については11月20日に終了していますが、募集に係る質問については随時受け付けています。（TEL011-866-8393 国内協力員）

帰国専門家の活動等については、会報「想遠（そうえん）」にでもお知らせいただけます。「想遠」に関するお問い合わせは北海道JICA帰国専門家連絡会（TEL011-866-7222）、又はJICA HICS図書資料室にて余部があればお渡しします。

ODA民間モニター報告書、中学・高校教師海外研修報告書については、別途報告書が2002年に作成されます。その際はJICA HICSホームページ（URL：[www.jica.go.jp/branch/hics/index.html](http://www.jica.go.jp/branch/hics/index.html)）等にて改めてお伝えする予定です。

## 平成13年度ODA民間モニター報告

全国から5230名もの応募を頂いたODA民間モニター。北海道からは2名のモニターが選出され、沖縄県及び神奈川県モニター達と中国を視察しました。

### 湊 克之 ＜中国見聞録＞

中国の一步は、真新しい北京空港と北京市内までの整備された高速道路と左右数十m幅の並木緑地、市内では高層ビルの連立に驚き、これがODA受益国かとの疑問を持った第一印象でした。翌朝、すさまじい騒音、車の警笛で目覚め、喧騒の中に活気溢れる市民生活を垣間見ました。北京でのODAは都市整備に役立っていました。

北京空港から1時間半の大部分は砂漠上を飛行し、やっと黄河と緑が見えると故西夏王国跡の銀川空港に到着。寧夏（ねいか）回族\*自治区の黄土高原地帯では、教室作りを手伝い就学率を上げたODAの貢献に対する、現地の人たちからの熱烈感謝を受けました。また、一方で月15円が払えず就学でき

ない貧困農家の実態もみえました。そこでの農家は質素ですが清潔で、子供の瞳は輝いていました。

都市部と内陸部の格差以上に都市部内での貧富の較差が拡大し、漠然とした社会不安が醸成しているとも、貧困人口は10億人とも聞きました。日本にとっても気になる事です。

その反面、中国の広大な国土とパイタリテイに富んだ民衆をみて、資源と食料を他国に頼るしかない日本をみると、そう遠くない将来に我々の子孫が援助を中国に対して請う時が来ることを予感した中国旅行でもありました。

付和雷同に感わされること無く、将来をしっかりと見据えた対中ODAを希求します。\*回族：イスラム教徒少数民族



湊さんは後列左から5人目  
在中国日本大使館前

## 吉野 育恵

<砂山に想う>

今回ODA民間モニターに参加したことによる一番の収穫、それは国際協力というものについて考える機会を与えてもらったことです。またそれ以上に、現地での現実を目の当たりにして得た体験は大きな収穫でした。視察した事柄も多岐に渡りますが、一番印象深く心に残っているものは、寧夏回族自治区に入ってからの黄河上流での保全林の造成計画でした。



漠と広がる砂の大地の前で

付近の村落の中では、草木が植えられ果樹なども栽培されていました。そこで試食させていただいた果物は大変瑞々しく美味しいものでした。けれども、村落から一步出るとその風景はガ

ラリと変わりました。砂山が延々と続き、草木もパラパラと生えているのみ。そこをこれから植林していく。ここでの植林は、耕地化する為というより、保全林という名のとおりに道路が砂に埋まることを防いだりするという役割を持っていることを聞き、ここでは砂漠化は死活問題であることを実感しました。

どの事柄でも感じたことですが、日中双方で関わっている方々の熱い思いを肌で感じました。その思いから考えたこと、感じたことはここでは表わし切れません。けれども、その思いをなんらかの形でまた国内外にお返していきたいと強く思っています。

### 研修現場から

## 「JICA研修はどうですか？」

①氏名 ②所属 ③担当研修コース名 ④JICA研修担当年数 ⑤コメント



(笑顔がすてきな日野さん)

- ①日野 勉
- ②北海道開発局国際室調査専門官
- ③地域開発の4コース
- ④講師及び全体調整担当の7ヶ月
- ⑤当局でテーマとしている「総合的  
地域開発」は計画論や事業の現場から環境保全や市民参加型行政までと取り込むべき要素も広く、関係機関の協力のもとニーズに合わせたフレキシブルなカリキュラム編成に心がけています。講師としてはまだまだですが、ようやく肩の力が抜けてきたかなという気がします。私の疲れが飛ぶ瞬間、それは帰国した研修員から「北海道が懐かしい」とメールを貰う時。そして、7割理解のコミュニケーションでビールをつぎ合い笑う夜。



(配慮がきめ細かい花上さん)

- ①花上真美
- ②北海道開発局国際室主任
- ③地域開発の4コース
- ④全体調整担当の1年7ヶ月
- ⑤「総合開発計画管理」をコンセプトに、北海道開発の経験を途上国の行政官の皆さんにお伝えしています。参加国の事情は様々なので、講師の皆様にご協力いただきながら、講義がより分かり易くなるよう工夫することを心掛けています。お願いするばかりではなく、自分も出来ることから始めようと、ガイダンスやフィールドトリップの説明はパワーポイントを使って行っています。これはこの夏に受けたJICAのトレーナーズトレーニングの成果です。研修員がうなずいて聞いてくださると本当に嬉しいです。

### 開発教育指導者研修 のお知らせ

開発教育については、2002年以降段階的に導入される「総合的な学習の時間」において前向きに取り組まれることが期待されています。このため、開発教育の参加型ワークショップの紹介等をおして教員の方々等に開発教育の知識を習得して頂き、学校現場において開発教育の担い手となって頂くと共に、併せて市民の途上国に対する関心・理解を促進することを目的に本研修を1月10日(木)、11日(金)にJICA HICSにて実施します。

### NGO屋台村開催 のお知らせ

昨年度同様、標記イベントが1月19日(土)、20日(日)の両日にかけて、札幌市生涯学習総合センター「ちえりあ」(札幌市西区;地下鉄東西線宮の沢駅地下歩道連結)で開催予定です。

北海道内だけではなく、各分野で活動している日本各地のNGO団体も参加し、NGOによる国際協力のとりくみについて広く市民一般に知っていただく機会です。詳細については主催団体である(財)札幌国際プラザ(www.plaza-sapporo.or.jp)、また共催するJICAのHICSホームページ等にてお知らせする予定です。

国際協力事業団(JICA) 北海道国際センター(札幌・帯広)

札幌/〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4番25号 TEL:011-866-8333 www.jica.go.jp/branch/hics

帯広/〒080-2470 帯広市西20条6丁目1-2 TEL:0155-35-1210 www.jica.go.jp/branch/hico